

北海道で「ぼうさい探検隊マップコンクール」表彰式を実施

～北海道函館聾学校と奥尻町立青苗小学校が入賞、自治体への要望も～

日本損害保険協会北海道支部(委員長：山下 敦志・損害保険ジャパン株式会社 執行役員 札幌支店長)は、第19回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」(※)で入賞した道内の2団体に表彰式を行いました。

同コンクールには、全国の小学校、子ども会、児童館など410団体から6,137人が参加し、1,179作品が寄せられました。入賞22作品のうち、北海道函館聾学校のチーム「函聾5年生」の作品が「まちのぼうさいキッズ賞(日本ユネスコ国内委員会会長賞)」、北海道奥尻町立青苗小学校のチーム「青苗小3・4年 ぼうさいキッズ」の作品が「審査員特別賞」を受賞しました。

北海道函館聾学校5年生2人のチーム「函聾5年生」は、学校の合同避難訓練で川を横断して避難することに疑問を抱き、より最適な避難先を探すため、避難所に指定されている3つの学校への避難ルートを実際に歩き、距離や移動時間、海拔からメリット・デメリットをマップにまとめました。渡島総合振興局にインタビューを行なって学んだことも取り入れ、避難するまでの時間がない場合は建物の上への「垂直避難」を考えるように提案しています。

2月3日(金)に同校で表彰式を行い、当協会北海道支部委員会の山下委員長から表彰状と副賞を贈呈しました。チームの2人は受賞を喜び、「地域みんなの命を助けられるマップになってほしい」と話しました。

北海道奥尻町立青苗小学校3・4年生6人のチーム「青苗小3・4年 ぼうさいキッズ」は、奥尻町が津波の被害を受けた1993年の北海道南西沖地震について調べて学ぶとともに、身近にある避難経路を高齢者が避難する想定で歩き、避難路の注意点や改善してほしい点などをマップにまとめました。

2月24日(金)に同校で表彰式を行い、当協会北海道支部事務局の長崎事務局長から表彰状と副賞を贈呈しました。また、チームの6人は、奥尻町役場で役場の防災担当者、消防署、警察等にマップの内容を発表し、街灯が少ない、雑草が生えていて歩きづらい、側溝が塞がっていないなどの避難路の危険箇所について点検・改善してほしいと要望しました。

自然災害が激甚化・頻発化する中で防災の必要性はますます高まっています。当支部では、「ぼうさい探検隊」活動の推進をはじめ、引き続き地域の防災意識向上に資する活動を行ってまいります。

(※)「ぼうさい探検隊」とは、子どもたちがまちを探検しながら、まちにある防災、防犯、交通安全に関係のある施設や設備を発見し、マップにまとめる実践的安全教育プログラムです。2004年から、毎年、マップコンクールを開催し、優れたマップを表彰しています。

<北海道函館聾学校「函聾5年生」の作品、表彰式の様子>



<北海道奥尻町立青苗小学校「青苗小3・4年 ぼうさいキッズ」の作品、町役場での発表の様子>



<関連リンク>

- ・協会ニュースリリース「第19回「ぼうさい探検隊マップコンクール」入選作品決定」(2022年12月14日)
https://www.sonpo.or.jp/news/release/2022/ctuevu00000152sh-att/2212_03.pdf
- ・協会からのお知らせ「第19回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」表彰動画を公開」(2023年1月26日)
https://www.sonpo.or.jp/news/notice/2022/pdf/2301_02.pdf